

# 血液透析装置と透析支援システム間における通信共通プロトコル Ver. 3.0 の使用経験

衆和会 長崎腎クリニック 長崎腎病院 臨床工学課 MBtec

○田中 健、矢野利幸、高木伴幸、橋口純一郎、原田孝司、船越 哲、  
穴見雅士

## 【はじめに】

2007 年に日本透析医学会より『血液透析装置における通信共通プロトコル Ver. 3.0』（以下、プロトコル）が公開され、複数社の血液透析装置を単一システムで運用することが可能となった。

## 【目的】

2011年7月より当院で導入した複数社の血液透析装置使用によるプロトコルを用いた透析支援システムの使用経験を報告する。

## 【方法】

3社（東レ・メディカル, JMS, ニプロ）の血液透析装置と電子カルテを含む透析支援システム（MBtec 社製:透析 Synapse）間の通信にプロトコルを用いてシステムを構築した。

## 【結果】

通信に関連するトラブルは、導入初期にヒューマンエラー3件、システムエラー0件であった。使用するメリットとして装置の選定にシステムが影響しない点、デメリットとして各社で通信を含む血液透析装置の操作方法が違う点などが上げられた。

## 【結論】

プロトコルは、透析支援システムにおいて複数社の血液透析装置を使用可能とする。